

平成25年度国立大学法人等
職員採用（図書系）二次試験問題

注 意 事 項

1. 問題は**20問（21ページ）**で、解答時間は**2時間**です。
2. この問題は、後ほど回収します。切り取ったり、転記したり、持ち帰ったりしてはいけません。
3. 下欄に第一次試験受験番号、第一次合格通知書番号及び氏名を記入してください。

第一次試験受験番号	第一次合格通知書番号
氏名	

指示があるまで中を開いてはいけません

【No. 1】

次は、学術図書館の歴史に関する記述である。(1)～(3)に該当する語句を答えなさい。

- 1) 紀元前 3 世紀、エジプトで国を建てたプトレマイオス王朝の君主が神殿ムセイオンを設立し、その附帯施設として(1) 図書館を設置した。(1) 図書館は、既存の資料を収集するだけでなく、翻訳や写本作成をしてコレクションに加え、学術図書館の機能の原型を示した。
- 2) 1257 年、長い修学期間を要する神学部生のために、パリに(2) 学寮が創設された。当初、(2) 学寮には、寄贈などにより学生に必要な図書が置かれ、やがて図書室が設置された。図書室の蔵書は、鎖で繋がれて持ち出しできないようになっていた。
- 3) 1737 年に設立されたドイツの(3) 大学の図書館は、図書や雑誌を系統的に購入し、書名目録とともに主題目録を整備した。また、教授や学生のために図書館を毎日開館し、煩雑な手続きを必要とせずに蔵書を借りることができた。
(3) 大学図書館のこうした取り組みは、やがて各国にも広まった。

【解答欄】

(1)

(2)

(3)

【No. 2】

次は、百科事典及び辞典の歴史に関する記述である。(1)～(4)に該当する語句を下から選んで記号で答えなさい。

百科事典の始まりは、古代ローマの(1)による『博物誌』にさかのぼるとされる。この著作は、宇宙-人間-動植物-技術-薬剤-芸術-鉱石の構成を持ち、100人の作者のおよそ2,000タイトルの本から2万もの「注目すべき事実」を拾いあげたものであった。

17世紀後半には、固有名詞事典である『歴史大辞典』や事典的辞典である『万有辞典』などの近代的な事典が出るようになった。ドイツでも『全学問・文化の大普遍辞典』が出されている。さらに18世紀に、イギリスの(2)が編纂した『サイクロペディア』の翻訳作業から始まったのが、フランスの『百科全書』である。その編集には(3)や(4)などがあたったが、啓蒙主義の世界観がイエズス会の攻撃などにあい、約30年をかけ全35巻に及ぶ事典として完成された。

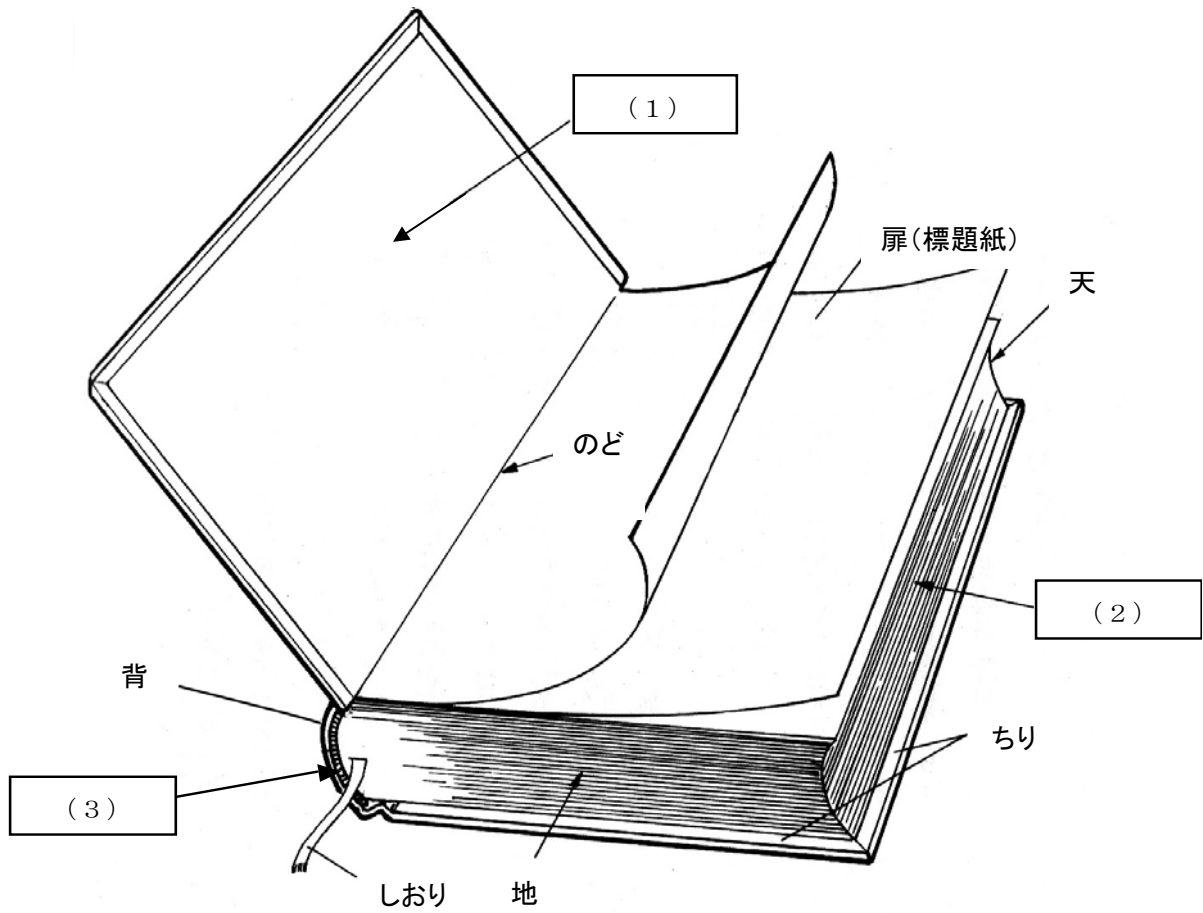
- | | | | |
|-------------|------------|----------|------------|
| (a) アリストテレス | (b) カリマコス | (c) キケロ | (d) ダランベール |
| (e) チェンバーズ | (f) ツェドラー | (g) デイドロ | (h) ビュフォン |
| (i) ブリタニカ | (j) プリニウス | (k) ベール | (l) ホップズ |
| (m) モレリ | (n) ライプニッツ | (o) リシュレ | (p) ロック |

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4)

【No. 3】

次は、洋装本の部位の名称を示した図である。(1)～(3)に該当する名称を答えなさい。



【解答欄】

(1)

(2)

(3)

【No. 4】

次は、文部科学省が実施した平成23年度の「学術情報基盤実態調査」及びその結果報告にもとづいた我が国の大学図書館の現況に関する記述である。正しいものをすべて記号で答えなさい。

- (a) 図書館資料費及び図書館運営費の総額は、電子ジャーナルの値上がり等により、ともに緩やかな増加傾向にある。
- (b) 電子ジャーナルの総利用可能種類数は増加傾向が継続している。また、電子ジャーナルに係る総経費も同じく増加傾向が継続しているが、増加率は急激に下がっている。
- (c) 洋雑誌（冊子体）の総購入種類数及び総購入経費は、減少傾向が継続している。
- (d) 機関リポジトリを構築している機関数は前年度から大幅に増加しており、そのコンテンツとしては学術雑誌論文が最も多く、その次に多いのが紀要論文である。
- (e) 大学図書館の組織・運営面における課題として「専門性を有する人材の確保」を、機能面における課題として「利用者サービスの向上」を、ともに8割以上の大学が課題として挙げている。
- (f) 「学術情報基盤実態調査」の調査対象は国立大学であり、その学術情報基盤（大学図書館、コンピュータ及びネットワーク等）についての現状を明らかにし、改善の基礎資料とするために実施されている。

【解答欄】

【No. 5】

次は、平成22年12月に科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会から出された、「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」の一部である。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

大学図書館は、大学における学習、教育、研究活動の変化や新しい動向に対応し、より効率的な支援を展開するとともに、特に学生を中心とする利用者の情報リテラシー能力の向上にはより積極的に関与していくことが望まれる。

最近の大学においては、学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、その支援を行うことが大学図書館にも求められている。近年、整備が進められている□□□□は、複数の学生が集まって、電子情報資源も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するものである。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、図書館職員等が、それらを使った学生の自学自習を支援することも重要である。

- (1) □□□□に該当する語句を下から選んで記号で答えなさい。
- (a) サブジェクト・ゲートウェイ (b) チュートリアルセンター (c) ラーニング・コモンズ
(d) ライティングセンター (e) レファレンスコーナー

- (2) 情報リテラシーや情報環境などのレベルによって、探索、入手が可能な情報の量や質に違いが生じることを何というか。

【解答欄】

(1)

(2)

【No. 6】

次は、平成 24 年 6 月 27 日に改正され、平成 25 年 1 月 1 日に施行された「著作権法」第三十一条第三項である。(1)～(3)に該当する語句を答えなさい。

〔(1)〕は、絶版等資料に係る著作物について、図書館等において公衆に提示することを目的とする場合には、前項の規定により記録媒体に記録された当該著作物の複製物を用いて〔(2)〕を行うことができる。この場合において、当該図書館等においては、その営利を目的としない事業として、当該図書館等の利用者の求めに応じ、その〔(3)〕の用に供するために、〔(2)〕される当該著作物の一部分の複製物を作成し、当該複製物を一人につき一部提供することができる。

【解答欄】

(1)

(2)

(3)

【No. 7】

次は、各図書を「日本十進分類法新訂9版」に基づき第3次区分表(3桁)で分類したものである。□に該当する数字(0～9)を答えなさい。

(1) 絵とき再生医学入門 (朝比奈欣治著) □ □ 2

(2) 最新歌舞伎大事典 (柏書房刊行) □ □ 4

(3) 心理学入門 (和田実著) □ □ 0

(4) 1Q84 (村上春樹著) 9 □ □

【解答欄】

(1)

(2)

(3)

(4)

【No. 8】

次は、「日本目録規則 1987 年版改訂 3 版」の本則に基づき、例示の図書について第 2 水準で作成した目録記述である。(1)～(6)に該当する語句等を答えなさい。

(1) / (2) . - (3)
 東京 : (4) , (5)
 17, 127p ; (6)
 ISBN 978-4-00-005703-5

標題紙の情報

新装版
電子図書館

 長尾 真

 岩波書店

奥付の情報

電子図書館 新装版

 1994 年 9 月 22 日 初版第 1 刷発行
 2010 年 3 月 18 日 新装版発行

 著者 ながお まこと 長尾 真
 発行者 山口昭男
 発行所 株式会社岩波書店
 〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
 ISBN 978-4-00-005703-5
 定価 本体 1500 円 + 税

この図書の大きさに関する情報

横 132mm, 縦 187mm, 厚さ 15mm

【解答欄】

(1)

(2)

(3)




(4)

(5)

(6)

【No. 9】

次は、文化庁が推進する「自由利用マーク」(著作者が自分の著作物を他人に自由に使ってもらってよいと考える場合に、その意思を表示するためのマーク)に関する説明である。正しいものには○を、正しくないものには×を答えなさい。

- (1)  は、著作物をそのままプリントアウト、コピー、配布することを、有償無償を問わず認めるマークである。
- (2)  は、障害者が使うことを目的とする場合に限り、コピー、送信、配布など、あらゆる非営利目的利用を認めるマークである。
- (3)  は、学校の様々な活動で使うことを目的とする場合に限り、コピー、送信、配布など、あらゆる非営利目的利用を認めるマークである。
- (4) 著作者は、自由利用マークを付けた後で、任意に取り消すことができる。

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4)

【No. 10】

次は、データベース及び参考図書の特徴を記述したものである。(1)～(3)のデータベース名あるいは書名を答えなさい。

- (1) 国内で発行された雑誌論文の書誌情報が検索できるデータベースで、国立情報学研究所が提供している。約1,500万件の学術論文情報が検索可能で、論文本文へナビゲートする機能も有している。また、引用文献と被引用文献がリンクにより相互参照できる。
- (2) 古代から1867(慶應3)年までに日本人が著編撰訳した和漢書を収録する総合目録である(全8巻、索引1巻)。図書館や文庫などに所蔵されているもの約50万点が、書名の五十音順に排列されている。現在では、この参考図書のデータは国文学研究資料館の「日本古典籍総合目録」というデータベースで検索できる。
- (3) 化学を中心とする科学情報のデータベースで、CAS (Chemical Abstracts Service) が提供している。抄録誌のChemical Abstractsに収録されてきた化学文献情報を中心に、物理、医薬、生命、農学などの関連分野や特許情報などのほか、物質情報も検索できる。

【解答欄】

- (1)
- (2)
- (3)

【No. 11】

次は、各種資料に関する記述である。正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 会議文献 (conference literatures) には、会議前に刊行されるプログラム、発表要旨集、発表予稿集などがあり、会議後に刊行される会議録や論文集がある。研究大会やシンポジウム、その他の会議で発表された論文や講演を収録したCall for papersは、新しい発見や議論を提供している。
- (2) 学位論文 (theses/dissertations) とは、博士、修士などの学位請求のために大学に提出された研究論文であり、審査を経て学位論文として認められたものである。我が国では、大学または大学評価・学位授与機構が授与する学位については学位規則に定められている。
- (3) テクニカル・レポート (technical reports) は、個人研究者や機関・団体が助成研究や委託研究などの成果を報告するためにまとめたもので、通常1件1論文の形式でまとめ、固有のレポート番号をつけて発行される。1909年に英国のAdvisory Committee for Aeronauticsが発行したものが最初である。
- (4) 特許資料 (patent materials) には、我が国の場合、出願人が作成する特許明細書、それに基づいて特許庁が発行する公開公報と公告公報、探索用二次資料として抄録・索引誌、分類資料などがあるが、国により形式が異なる。重複研究の防止や権利侵害の確認、技術動向調査などの目的で利用され、技術資料としての役割も大きい。

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4)

【No. 12】

日本の出版流通界における二大原則といわれる再販制と委託販売について、簡潔に説明しなさい。その際、それぞれの説明において「出版社」、「書籍」、「書店」という三つの言葉をすべて用いること。

【解答欄】

再販制：

委託販売：

【No. 13】

次は、ビブリオメトリクス（計量書誌学）に関する記述である。（1）～（4）に該当する人名を下から選んで記号で答えなさい。

ビブリオメトリクスとは、図書や雑誌論文といった文献の生産、流通、利用などの側面にかかわるさまざまな事象を数量的・統計的に測定、分析することで、文献の集合的な特性やふるまいの規則性を明らかにする研究領域である。ビブリオメトリクス研究では、次のような法則がよく知られている。

（1）の法則：雑誌の掲載論文数に関する法則。ある主題に関連する論文の多くが少数の主要雑誌に掲載される一方、そのような論文をごくわずかしか掲載しないような雑誌が非常に多く存在するという経験則。

（2）の法則：テキストに出現する語の集中と分散に関する規則性についての法則。ごく一部の語が頻繁に使用される一方で、非常にわずかしか使用されないような語が多数存在するという偏った分布のこと。

（3）の法則：特定の主題分野において、一定期間に少数の著者が多産であり、その分野の出版物のかなりの部分を執筆すること、他の多くの著者はそれぞれ1あるいは2件程度の出版物しか生産しないことを示唆する。すなわち、生産される文献数とそれを生産する著者数との間には、逆関係が存在することを示している。

また、ビブリオメトリクスの主要な研究手法として、引用分析があげられる。引用分析を促進し、その有用性を画期的に高めたのは（4）であり、彼が1972年に科学界における雑誌の重要度を示す指標として用いたインパクトファクターは今も広く活用されている。

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|--------------|
| (a) オトレ | (b) ガーフィールド | (c) ガーベイ | (d) ジップ |
| (e) デューイ | (f) パニッツィ | (g) ブラウン | (h) ブラッドフォード |
| (i) プリチャード | (j) ランカスター | (k) ランガナータン | (l) ロトカ |

【解答欄】

(1) (2) (3) (4)

【No. 14】

DOI (Digital Object Identifier) について、次の文章の下線部分を埋めて説明しなさい。

【解答欄】

DOI とは、 _____ に付与される識別コードであり、

DOI の機能は、 _____ である。

【No. 15】

ある検索エンジンを用いて「日本の、短期大学を除く大学における情報リテラシー教育あるいは初年次教育について」の情報が得られる検索式を書きなさい。

なお、下線の語句を検索語として、次の論理演算子を使うこと。

論理演算子：論理積「*」、論理和「+」、論理差「-」

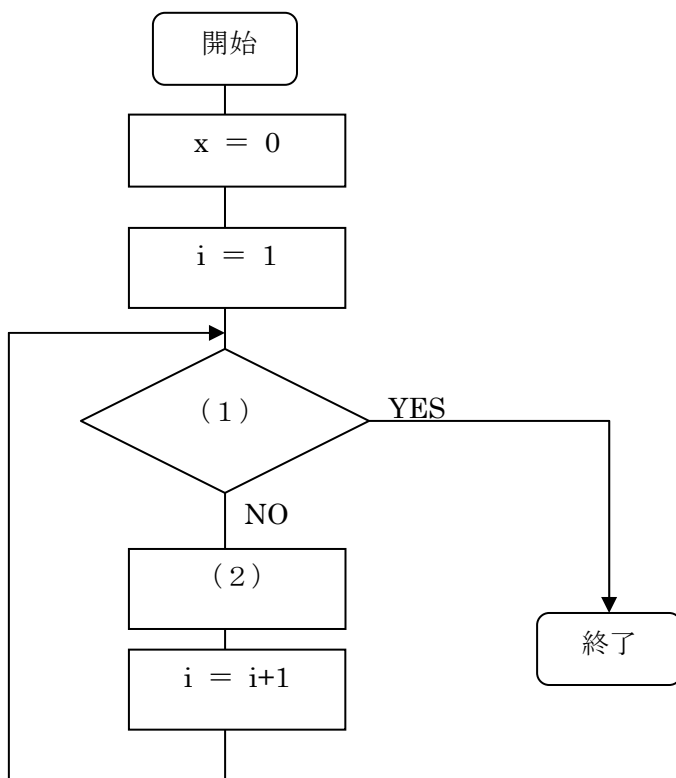
【解答欄】

【No. 17】

次は、1から100までの整数の総和（ $1+2+\dots+100$ ）を求め、その結果を変数 x に入れるアルゴリズムをフローチャート（流れ図）で示したものである。

(1) と (2) に入る条件式、処理を下から選んで記号で答えなさい。

なお、変数 x に値 a を代入する時は、 $x = a$ と表すものとする。

(a) $i = 100$ (b) $i < 100$ (c) $i > 100$ (d) $x = 100$ (e) $x < 100$ (f) $x > 100$ (g) $x = i + 1$ (h) $x = x + i$ (i) $x = x + 1$

【解答欄】

(1)

(2)

【No. 18】

次は、海外の図書館関係の団体についての記述である。(1)～(3)に該当する団体名を英語略称で答えなさい。

(1) is a nonprofit, membership, computer library service, and research organization. Since its founding in 1967 by university presidents in Ohio, its mission has been to further access to the world's information and reduce library costs.

(2) is regarded today as the national library of the USA. It occupies a unique place in American civilization. Established in 1800 as a legislative library, it grew into a national institution in the nineteenth century, a product of American cultural nationalism.

(3) is the leading international body representing the interests of library and information services, their staffs, and users. It is an independent, nongovernmental, not-for-profit organization. It was founded at an international congress in Edinburgh, Scotland, in 1927.

【解答欄】

(1)

(2)

(3)

【No. 19】

次は、図書館が提供するサービスについての説明である。(1)～(3)に該当する語句を下から選んで記号で答えなさい。

- (1) A service or publication designed to alert scholars, researchers, readers, customers, or employees to recently published literature in their field(s) of specialization, usually available in special libraries serving companies, organizations, and institutions in which access to current information is essential. Such services can be tailored to fit the interest profile of a specific individual or group.
- (2) A single interface, providing integrated access to the multiple information resources (catalogs, publishers' e-book and e-journal collections, subscription databases, archival collections) to which a library has rights. Systems use consolidated subject indexing and metadata.
- (3) A subject bibliography designed to lead the user through the process of researching a specific topic, or any topic in a given field or discipline, usually in a systematic, step-by-step way, making use of the best finding tools the library has to offer. It may be printed or available online.
- (a) bibliographic instruction service (b) clipping service
(c) current awareness service (d) discovery tool
(e) document delivery service (f) link resolver
(g) linking service (h) pathfinder
(i) personalize service (j) referral service

【解答欄】

(1) (2) (3)

【No. 20】

次は、平成24年7月に科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会から出された、「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について（概要）」の英訳のうち、機関リポジトリに関する記述の一部である。この記述に合致しないものを下から一つ選んで記号で答えなさい。

As the challenges in the development of institutional repositories, the most important task is the increase of deposited content. The content is deposited primarily by library staff with cooperation from departments and researchers, and the deposit of content is basically done by each researcher who exercise the right of “self-archiving”. Universities and other institutions have devised various ways of reducing the burden of researchers. One example is a system in which library staff handles the rest of the work on behalf of researchers. Other examples include linking of research results to a researcher database published by the university. It is also important to share these systems.

Universities and other institutions need to assist researchers in understanding that registration of their research results in open access institutional repositories is beneficial to researchers themselves because it facilitates searches by domestic and international audiences, and assists distribution of information. At the same time, researchers should be reminded that making their research results open access leads to the fulfilment of the university’s duty of returning scientific information to society.

It is also important to clarify that the institutional repository is a function of disseminating information, which universities and other institutions need to make a concerted effort to improve.

It is important to put effort into information dissemination via institutional repositories as a subject of evaluation in institutional certified evaluation systems, and to understand and publicise the status of such endeavours. It is also important to include information dissemination efforts as one of the evaluation points when universities evaluate achievements of individual researchers.

It is important to pay attention to the uniqueness of information as the universities and institutions prioritise the content to be registered in institutional repositories, focusing on unique resources owned by each university and institution, as well as resources that are difficult to distribute through other systems. Based on information strategies and improvement policies, the universities and institutions should decide what types of content to cover intensively and comprehensively, as well as whether they should be open access as they try to enhance and disseminate the content.

It is necessary to urge academic societies to promptly consider and publicise their

copyright policies. At the same time, it is necessary to enhance services that will help strengthen information dissemination capacities and operational systems, including the active deployment of the NII's shared repository, and sophistication and standardisation of the functions of the institutional repository software.

- (a) 大学等の機関評価や研究者の個人評価において、機関リポジトリによる情報発信への取り組みを評価の観点とすることが重要である。
- (b) 各大学等は、機関リポジトリにどのようなコンテンツを重点的かつ網羅的に登載すべきかを判断しつつ、コンテンツの充実・発信に努めるべきである。
- (c) 今後、機関リポジトリのコンテンツを一層充実させるためには、図書館職員が代行して登載するよりも、研究者のセルフアーカイブを強力に推進する方がより重要である。
- (d) 大学等は研究者に対して、研究成果を機関リポジトリに登載することが研究者に利益をもたらす、かつ、大学等の責務遂行につながることについて理解を促す必要がある。
- (e) 共用リポジトリの積極的な展開や、機関リポジトリのソフトウェアの高度化・機能の標準化など、情報発信機能や運用体制の強化に努める必要がある。

【解答欄】